

平成26年2月25日

第119号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



ワゾウ沢復旧治山工事 米ヶ沢国有林（新潟県村上市）

（撮影者：下越森林管理署 村上支署 治山グループ）

森林総合監理士（フォレスター）の育成

森林整備部 技術普及課

私と国有林「国有林と歩んだコマクサ群落の復元」

白根山系の高山植物を護る会 事務局長 湯田 六男氏

森林総合監理士「フォレストスター」の育成 森林整備部 技術普及課

平成23年7月に閣議決定された「森林・林業基本計画」において、森林・林業の再生に向けた取組を実現していくため、施業の集約化、路網の整備、必要な人材の育成を軸とした各種施策の基本的な方向が位置づけられました。

このような取り組みを現場レベルで実行していくためには、広域的・長期的視点に立った森林づくりと林業・木材産業の活性化に向けたビジョンを描き、ビジョンの実現に向け、関係者の合意形成を図りながら、一般の取り組みを進めていく中心となる技術者として「森林総合監理士」(フォレストスター)を育成することとしています。

フォレストスターの役割・活動内容

① 構想の作成
地域の森林をどのように整備・保全していくのか、林業や木材産業の活性化をどのように進めていくのかについて、自然的・社会経済的条件を踏まえながら広域的・長期的な視点に立った構想(マスタープラン)としての市町村森林整備計画づくり

② 合意形成
公平・公正・中立的な立場から、

地域の森林・林業関係者(森林所有者、森林組合、素材生産業者、木材加工業者、行政機関等)や一般市民の間で構想について合意形成を図ります。

③ 構想の実現

構想の実現に向け、制度や予算等を活用しながら進めていきます。

具体的な活動内容としては、技術・知識に関する森林所有者等への指導、川上から川下の林業・木材産業・建設業等の関係者の連携・調整などを行うこととなります。

森林総合監理士(フォレストスター)試験について

国有林も林業技術者集団として、フォレストスターの排出が期待されています。国有林のフォレストスターは、日常業務での技術面の指導力発揮に加え、民有林との接点として提案型の民国連携の調整力が期待されます。

関東局では平成25年度より新設された資格試験区分「地域森林総合監理」試験に6名の方々が合格されました。

この資格試験は、毎年実施されるものであり、これに向けて、多くの方々がチャレンジしていただくことを期待しているところです。

日光森林管理署

森林技術指導官

泉田利明



受験に向けて

民国連携の担当者として共同施業団地設定等に努めていましたが、県や市さらには林業関係者等の担当者との接点が少なく情報の収集等に苦慮していました。

このため、地域の特色を生かした森林・林業とするコーディネートが必要を実感し、フォレストスターの受験を考えました。

今後の抱負

市町村担当者から森林整備計画策定等について相談を受け、その指導を行うにはフォレストスター間で連携・協力して支援をすることが重要と考えています。

チームとしての体制を構築し実践での経験を積み重ねながら、自然保護は基より林業県であり観光県である栃木県の特徴を踏まえた、持続可能な森林づくりの実現に向けて取り組みたい。

塩那森林管理署

次長

山本道裕



受験に向けて

准フォレストスター研修の担当企画官として研修運営全般に携わり、自らも研修生と同じ目標を持つことで、研修全体の質の向上・改善を目指すことができ、スキルアップにつながると考え、フォレストスターを志しました。

そして、目標の達成には、研修生や講師等と共に一丸となって研修を作り上げてきたことが一番の励みとなりました。

今後の抱負

准フォレストスター研修では研修生のつながり(絆)を大切にしてきました。

今後は、情報交換等交流を密にし、この絆をより一層深めつつ、民国のフォレストスター等が連携し、地域の森林・林業の再生と振興に資する取り組みに携わりたいと考えています。

そして、常に研鑽を積みながら情熱を持って、フォレストスターに係わる業務に従事したいと思います。

中越森林管理署

森林技術指導官 石田 健



受験に向けて

私がフォレスターを志した動機は、「民有林を見て立派な林があるのに活用されていない、手入れ不足で林内に光が差し込んでいない」と感じていた頃、フォレスターの存在について知り、民有林を含めた一体的な森林施業を手がけることができるのならフォレスターになりたいと思ったのがきっかけです。

今後の抱負

今日まで国有林野事業で積み重ねた経験を活かすことができる国有林フォレスター、地域から信頼される国有林フォレスター、川上から川下まで顔の広い国有林フォレスター、公平・公正・中立の立場の国有林フォレスター、森林・林業の再生と活性化に向けた夢のある構想を作成して、関係者との合意形成を図り、構想を実現できる国有林フォレスターを目指したいと思います。

千葉森林管理事務所

森林技術指導官 太田 茂



受験に向けて

日本の森林の総蓄積量は49億³m³であり、毎年、1億³m³が増加しているという。この増加量は、毎年の木材需要量を上回るものとなっている。

我々は、森林の木材生産機能と公益的機能の二つを調和させる大きな役割を担っている。政策・施策は整いつつあるが、いざというときに、すぐにでも対応できるスキルを身につけるためフォレスターを志した。

今後の抱負

可能であれば故郷の森林のあるべき姿をランドデザインし、市町村森林整備計画のマスタープラン策定に参画したい。

計画樹立後は、計画に沿った森林の整備、保全、木材生産活動が行われているか。また、それらの行為・活動は、持続可能なものであつて地域住民や森林・林業に携わる者が望んでいたものであつたのか等を見守り、見極め、検証してみたい。

高尾森林ふれあい推進センター

自然再生指導官 木皿仁志



受験に向けて

前任地の伊豆森林管理署において流域管理調整官として勤務した際に伊豆地域森林整備推進協定が締結され静岡県賀茂農林事務所とともに伊豆地区の各市町村が策定する森林計画の立案に立ち合わせていただきましたが、経験不足からの確なアドバイスをすることができず力不足を実感したのがフォレスターを志したきっかけです。

今後の抱負

フォレスターは地域の森林・林業の牽引者です、地域に対応した取り組み、新しい林業技術を取り入れながら林業関係者から信頼されるようなフォレスターになりたいです。

また、将来を担う小中学生等の若い人たちにも森林・林業のすばらしさを伝えてまいりたいと思います。

今後は、民間事業体への見学や講演会等の公聴や専門知識の習得などの自己研さんに努めます。

森林技術・支援センター

森林技術普及専門官 高田 悟



受験に向けて

私は、准フォレスター研修に運営担当者として携わる中で、これからの民国連携と地域の森林林業再生にはフォレスターの果たすべき役割が重要（面白い）と感じて、資格に挑戦してみようと思いました。

研修を一番近くで見ることが、門前の小僧のように貴重な学びの機会となり、試験に活かすことは出来たと感じています。

今後の抱負

フォレスターは、地域の森林林業関係者を繋ぐコーディネーターとしての役割が特に重要であると同時に、一步を踏み出す「きっかけづくり力」が求められると思います。

今後の業務を通じて技術力・構想力・実行力、そしてコミュニケーション力等の向上を目指して研鑽を積み、民国連携や森林林業の活性化に向けて少しでも貢献できるよう前向きに取り組むたいと考えています。



須藤局長から表彰を受ける大北産業㈱樋本代表取締役

国有林間伐推進コンクールで 管内請負事業体が優秀賞を受賞

森林整備部 資源活用課

林野庁主催の平成25年度国有林間伐推進コンクールが行なわれ、今年度から新設された車両系搬出間伐部門（初回間伐）で茨城署管内の大北産業株式会社（茨城県北茨城市）が優秀賞を受賞されました。

今年度で12回目になる国有林間伐推進コンクールは、国有林野事業における間伐等の請負事業や立木販売

において、優れた品質の森林整備を行うとともに、高い生産性等を達成した先駆的な取り組みに対し、その作業システム等の優秀な事例を公表することにより高効率かつ低コストな間伐等について民有林を含めた普及、定着及び推進することを目的としています。

受賞事例は「従来の森林作業道の開設はチェーンソーによる先行伐倒を行い、バックホウで作設する一般的な方法から、フェラーバンチャ付きグラップルバケットを使用し、伐倒と作設の二つの工程を同時に行なうことで、伐倒手を他の工程に従事させることが可能となり、造材にハーベスタを採用し森林作業道沿いの伐倒、造材工程の効率化を図ったことにより、生産性は5m³/日から10m³/日にアップし、併せて労働安全性も高まった。」という取り組みです。

なお、最優秀賞は、九州森林管理局管内の有限会社高崎産業（宮崎県小林市）の「森林作業道の開設と各作業工程間で連携を密にし、高性能林業機械の有効的な稼働による生産性の向上による取組」が受賞しています。



フェラーバンチャ付きグラップルバケットによる森林作業道開設

ます。

これからも、多くの事業体からの間伐推進コンクールへの参加を呼びかけるとともに、高効率かつ低コストな間伐等への取り組みを進めていきます。

今月の表紙 「コンクリート谷止工の 新設工事」

新潟県村上市の米ヶ沢国有林で施工されたワゾウ沢復旧治山工事です。写真は、右上より「打継目のレイタンス除去作業」「天端の表面仕上げ作業」「丸太型枠の設置作業」下は「完成写真」で堤高6m、堤長22mの丸太型枠が美しく施工された谷止工です。

当該事業地は、平成17年の集中豪雨で山腹が崩壊し土石流が発生、下流域の国道・水田にまで被害が及んだ箇所です。平成21年度から谷止工の設置により溪床を安定させる復旧を行っています。



高尾の森から

高尾森林ふれあい推進センターでは、森林とふれあいたいという都民の要請に応えるため、様々な活動を行っています。

今回は、秋期に実施した活動の中からいくつか紹介します。

横浜の小学生が森林教室

横浜市立下田小学校（山菅正之校長）は「普段体験できない自然のなかで、子どもたちに丸太切りなどを体験させたい」と、小学4年生110名が11月8日に高尾山国有林・森林ふれあい館を訪れました。



アニメ鑑賞の様子

最初に、地球温暖化について考え、森林の働きなどを学んでもらうため、身近な実例を取り入れて作成されたアニメーション「かれんと不思議の森」を視聴し、子どもたちは、真剣に見ていました。

午後からは、森林散策で慣れない山道をスタッフの解説を聞きながら歩いたり、丸太切りでは友達と助け合ったりと短時間ではあったものの貴重な体験をしました。

森林カレッジⅢ

森林カレッジⅢは、元森林総合研究所多摩森林科学園園長の三輪雄四郎先生をお招きし、参加者27名で「木の成長のしくみ」の講義と間伐体験を11月16日に実施しました。参加者は、最初に「木の成長等」



丸太切り体験の様子

に関わる試験問題を受け、その解答に沿って三輪先生が講義し、参加者一同は興味津々で講義時間内で収まらない程の静聴となりました。

講義の感想では「肥大成長のしくみに驚いた」「木の部位ごとの役割がよくわかった」「話がわかりやすくおもしろい」「早く人に話したい」など大変好評でした。

午後からは、間伐体験で傾斜地の足場の悪いところ、慣れない作業に悪戦苦闘しながらも伐倒から搬出までの一連の作業を体験しました。

森の料理教室とクラフト体験

農山村の生産活動に大きく寄与している特用林産物、とりわけ「しいたけとその料理」を知ってもらう取組として「日本産・原木乾しいたけ



「森林カレッジ」の様子

をすすめる会」との共催により、親子を対象に「森の料理教室とクラフト体験」の公募イベントを10月19日に実施しました。

参加者は、八王子市内の生産者がイベント当日に収穫できるよう調整・提供されたしいたけ原木からしいたけの収穫を体験。

続いて、NHK「きょうの料理」をはじめ民放でもおなじみの料理研究家の堀江ひろ子氏により、乾しいたけを使った料理教室を受講。

また、子どもたちは、手待ち時間を利用して、クラフト体験や森林散策を楽しみました。

今回の参加者は少なかったものの、参加者からは「親と子どもが楽しめる企画だ」などの感想をいただいています。



しいたけの収穫の様子

私と国有林

「国有林と歩んだコマクサ群落の復元」

白根山系の高山植物を護る会 事務局長 湯田 六男



本白根山国有林に群生するコマクサの復元・保護活動に尽力された3人の先駆者とこれまでの活動について紹介します。

宮尾徳繁さんは、昭和7年に大量のコマクサが盗掘されたことをきっかけに嬭恋村の植物愛好家を集め「高山植物保存会」を結成し、白根山におけるコマクサ保護活動の基礎を作られた方です。

千川文次さんは、コマクサの増殖に使用する種を採取するため、昭和13年に草津宮林署(当時)職員の案内で万座温泉から逢の峰を越えて本白根に向かい、ガレ場の砂と種を持ち帰り、万座で栽培することに成功し、採取した種を本白根のガレ場に播種した方です。

当時コマクサの種を採取した場所は、ハイマツに囲まれたコマクサの大群落だったそうです。
山口雄平さんは、草津町でコマクサの苗を所有していたおたねさん

(置屋の女将さん)から苗1株と種を頂き、この株と種から増殖に成功し、増やした苗を無償で白根山に植える活動を行った方です。

おたねさんからコマクサを頂く際に、主旨を理解されず何度も追い返されたエピソードが残っています。

「高山植物保存会」では、昭和53年にコマクサを復元するために2万粒の種蒔きを行い、成長したコマクサの苗5百本を昭和55年に白根山に植栽したが、後に全部盗掘されてしまいました。



ガレ場に咲くコマクサ

これを契機に「大人が盗むなら子供達が植えれば盗採が減るのでは」と白根担当区主任(当時)の提案で、昭和56年から草津中学校が保護活動に参加し、地域の総力をあげて「コマクサ愛の一粒、一株」運動が始まりました。

昭和61年7月14日には「コマクサ愛の一粒、一株」をスローガンに「本白根山のコマクサを復元する会」

が結成され、本白根山のコマクサを護ろうと環境庁、林野庁、群馬県、草津町、嬭恋村等の行政や草津中学校、関係諸団体が結集して総合的な保護活動が始まりました。

会の結成以降、毎年6月の第2火曜日には、コマクサの植栽と保護ロープ張りを実施し、パトロールはシーズンを通じて実施しています。



吾妻森林管理署による森林教室

昭和55年に苗を植え始めて17年目(宮尾さんが保護活動を始めてから65年)の平成8年には、復元したコマクサを一般の方々に見ていただくため「コマクサ復元感謝祭」を盛大に行いました。

平成8年からは「白根山系の高山植物を護る会」と改名し、草津中学生等とともに保護活動を行っています。

コマクサ保護活動に取り組み80年、多くの先人の苦勞により現在では、コマクサの開花時期には多くのお客様で賑わいを見せています。

今後も吾妻森林管理署等との連携を密にし、高山植物の保護活動を継続していきたいと考えています。

「白根山とともに」(平成2年3月発行)を参考に記載



白根山系の高山植物を護る会による保護ロープ撤収作業

森づくり最前線

東京神奈川森林管理署 箱根森林事務所 森林官 安井 一太



芦ノ湖と芦ノ湖西岸国有林(右奥は富士山)

私が勤務する箱根森林事務所は、神奈川県箱根町に所在し、箱根町、湯河原町、伊豆諸島(神津島・三宅島・八丈島・青ヶ島)にまたがる約1841haの国有林を管理し、その内1416haは箱根町に所在しています。箱根町は首都圏から近く、古くからの温泉地で、知名度の高い観光地となっています。また、昨年9月に日本ジオパークに認定されたこともあり、国内外から年間1900万人以上の人が訪れ、雄大な自然や温泉などを楽しんでいます。箱根町内の国有林は、神山、駒ヶ岳、台ヶ岳、屏風山、芦ノ湖西岸の標高700mから1400mに分布し、芦ノ湖を取り囲むように位置して、天下の険と



旧街道杉並木

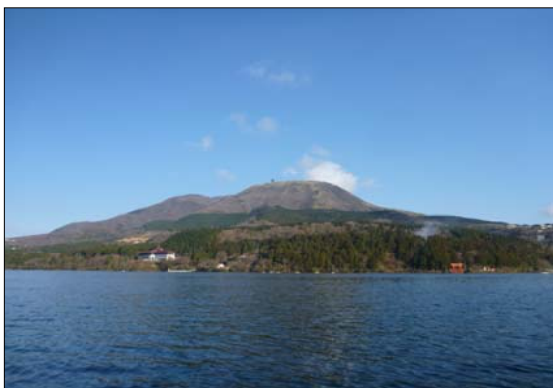
歌われるだけあり、急峻な地形の箇所が多くあります。現地は、約7割が広葉樹林で、残り3割がスギ・ヒノキの人工林となっており、人工林は歴史的な背景もあり芦ノ湖西岸に多く分布しています。江戸時代に関所が芦ノ湖畔に設置され、江戸に入る鉄砲と江戸から出る大名の妻を厳しく規制していたことから、芦ノ湖一帯は監視のため火入れが行われススキで有名な仙石原のような草地として維持されてきました。が、明治時代に移ると関所は廃止され、関所近くに皇族の避暑と外国からの賓客のため箱根離宮が建築されたことから、草地のままでは景観が良くないため針葉樹を主体とする植林が行わ



仙石原のススキ

れた経緯があります。現在では、植林してから10年以上経過している森林も多く、周辺を散策するハイカーの中には天然林と間違える方もいます、これは先人たちの努力によるものです。最近では、風致に配慮して広葉樹林を増やしてほしいとの要望もあり、当該地域が観光地であることも配慮した施策が課題の一つとなっています。当管内において、今までの100年とこれからの200年を見据えた「箱根300年の森林づくり」の構想のもと、針広混交林誘導モデル施業に取り組み、針広混交林や針葉樹の巨木林など多様な森林づくりを目指しています。

この取り組みは、技術的検証が始まったばかりで、植林に使用する箱根に自生する広葉樹の種子採取やコンテナ苗の育成、試験地の設定を行っている段階です。本格的な実施までは失敗もあり、大変なこともあると思いますが、先人たちの努力の成果を引き継ぎ、次の世代に引き継げるように努力したいと思っています。私は、森林官の職務は2年目であり、勉強の毎日ですが、様々な状態の森林や取り組みから多くを学んでいます。森林ごとの将来のビジョンを見据えながら、今ある課題を改善し、少しでも良い状況にしたいけるように努めていきたいと思っています。



駒ヶ岳と芦ノ湖

管内のいちおしスポット



ま く ば
お幕場

■ 下越森林管理署村上支署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/murakami/index.html>
〒958-0033 新潟県村上市緑町三丁目1-13
TEL:0254-53-2151(代表) FAX:0254-53-2153

お幕場(上ノ浜・砂山国有林)は、村上市(旧：神林村)の塩谷海岸に面した約175㍍の松林です。

お幕場の名の由来は、村上藩主や内室、奥女中などの遊園行楽の場所で、行楽の際に幕を張り巡らし野点等が行われたことからと言われており、今は、その当時を偲んで、毎年5月に盛大な茶会が開催されています。

お幕場は、樹齢120年以上の松が林立し、自然観察教育林(お幕場いこいの森)に指定され、下越森林管理署村上支署と村上市が管理・整備を行っています。

隣接する浜山(浜山国有林)には貞享元年(1684年)に松苗5000本が植栽されたとの記録が残っていることから、周辺の森林も植林が行われてきたと考えられています。

冬の季節風が強く吹き付けるこの地において、この森林が自然に成り立ったわけではなく、人々が営々と植え・育ててきた森であることの証です。

現在も海岸線近くは、寒風害や塩害による枯損木が見られ、対応に苦慮しているところですが、鬱蒼たる松林を見上げる度に先人の苦労が偲ばれます。

また、昭和50年代後半から、この森にも松くい虫の被害が出始め、以降、地域の方々の理解と協力を得ながら薬剤散布等を実施し被害の防除を図っており、300年以上の歴史を積み重ねてきた「お幕場の森」を後世にしっかりと引き継いで行きたいと考えています。

この森林は「白砂青松100選」や「森林浴の森100選」にも選ばれており、林内には遊歩道や東屋が整備され、四季を問わず散策する市民の憩いの場となり、冬場に白鳥等の水鳥が飛来する砂丘湖があり羽を休めている姿を観察することができます。

近くには、明治37年に石油掘削中に噴出した瀬波温泉があり、豊富な湯量と95℃の高温が自慢の温泉で、眼前には鯛で有名な粟島と日本海を望むことができます。

村上においでの際は、ぜひ「お幕場の森」を散策してみてください。

ひょっとしたらお姫様に会えるかもしれませんよ。

(下越森林管理署村上支署 広報広聴連絡官 古澤茂昌)



お幕場で開催されるお茶会



上空からのお幕場と日本海



白砂青松100選のお幕場松林



お幕場から望む日本海の夕日

編集発行
F T 集
A E 所
X L 総
(0 2 2 7) 関
(0 2 2 7) 東
(0 2 2 7) 森
2 2 務
3 3 林
0 0 管
・ 理
1 1 局
3 1 課
9 5
3 8